Sense of Mission Vol.8　11 月号　2026 年 10 月 30 日発行

～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙 II　5 章 17 節

「注意書きの看板が多すぎる公園」

私の時代の「遊び」って？　「鬼ごっこ」「かくれんぼ」「缶けり」「空き地で野球」「めんこ」「ヒーロー・ヒロインごっこ」などなど。基本的に、立派な場所では遊んでいません。場所は関係なく、誰と遊ぶかが重要でした。そして人数も必要でした。「今日、学校終わったら何時に〇〇に集合ね」としっかりコミュニケーションをとっていました。なぜあれほど熱中したのか不思議です。友だちと必死になって遊んでいました。ところが大人になってその公園に行くと、当時の私たちのような子どもの姿はありません。なぜなら、公園には注意書きの看板が多くあるからです。大人の息のかかった公園には進んでいく気にはならないのです。その公園に魅力を感じません。私は頭の中で、「公園」を「学校」に置きかえてみたりします。なぜなら、**「主体性の育成」**に通じるからです。

ふと思うのですが、私はこうした「遊び」の中で、社会的なルールやマナーを身に付けていたような気がします。「遊び」そのものにルールがあり、それを守らなければ楽しくないこと、一人では楽しくなく、友だちが必要なことを体験的に理解します。だから、自分だけ楽しければいいという自己中心的な振る舞いをせずに、友だちと協調しながら楽しむことを理屈ではなく体で直に感じ取っていたと思います。その経験を手に入れて大人になっていったと思います。

また、「遊び」の多くには「勝ち負け」や「相手より上手にできるかどうか」という競技性があります。勝てばうれしく、負ければ悔しい。勝負なので簡単にやり直しもできないし、転んだりすれば怪我をして血が出ることもあります。でもそうした失敗やプチ挫折経験があればこそ、チャレンジ精神も強くなっていったと思います。

こうした「遊び」と「学び」の構造はとても似ていると思います。うまくできない、とても勝てないとなれば、上級生や上手な友だちを見てよく研究し、「真似をする」はずです。そして、粘り強く練習して、気付いてみればできなかったことができるようになるし、上達もしています。私は、**「遊び」と「学び」そして「仕事」も重なり合っていると思います**。

アメリカのテンプル大学とデラウェア大学の２人の女性研究者が「遊びの５原則」というものを書いています（次頁参照）。その中で、「遊びは、楽しくなければならない」「遊びは、遊ぶ人の自発的な選択によるものでなければならない」「遊びは、遊ぶ人が能動的に関わらなければならない」と言っています。この「遊び」を、「学び」や「仕事」に置きかえてみます。すると不思議と納得感をもつことができると思います。

みなさんの中には、「遊び」と「学び」「仕事」が同じだということに眉をひそめる人もいるのかもしれません。「学び」「仕事」に「つらい」「苦しい」などのネガティブなイメージをもつのは、それが社会生活に必要なことだと義務付けられたり、試験などがあったりするからでしょう。もちろんそれは、社会が成り立つためには必要なことでもあります。しかし、ただ知識を詰め込んでも、それが社会で役立つことはほとんどありません。例えば、車の運転をしたことない人が、運転の知識だけ暗記しても、それだけで運転するのは無謀です。

こういう話をしても、「遊び」＝「学び」「仕事」とはなかなか思えないかもしれません。でも私は、みなさんにはできるだけ「学び」＝「遊び」というマインドになってほしいと思っています。なぜなら、「遊び」には、最初に書いた通り、主体性と協働性の要素があるからです。これはこれからのみなさんの人生に必要不可欠な要素だからです。

（学校長　重枝　一郎）

【遊びの５原則】

アメリカの女性研究者キャシー・ハーシュパセクとロバータ・ゴリンコフは、「遊び」について、以下の五原則を唱えている。

１　遊びは楽しくなければならない
２　遊びはそれ自体が目的であるべきで、何か他の目的であってはならない
３　遊びは遊ぶ人の自発的な選択によるものでなければならない
４　遊びは遊ぶ人が能動的に関わらなければならない。遊ばせてもらっていたら遊びではない
５　遊びは現実から離れたもので、演技のようなものである。子供が何かの「ふり」をしていたらそれは遊びである

宗教部より

キリスト教教育強調日　講師：牧師・篠原健治先生　－11 月 9 日(月)、10 日(火)－

「コンフォートゾーンを出よう」という内容でお話しをしていただきます。コンフォートゾーンとは、自分が慣れていて、安心して過ごせる場所や、これまで当たり前だと思ってきた考え方・行動の仕方のことです。聖書には、神様からの呼びかけを受けて、慣れ親しんだ場所や生活、これまでの考え方から一歩踏み出した人たちが数多く登場します。その人たちの姿を通して、「自分にとってのコンフォートゾーンとは何だろう」「そこから一歩踏み出すとは、どういうことだろう」と、自分自身のこととして考える２日間にしましょう。

収穫感謝礼拝－11 月 19 日(木)－ お米、野菜、毛糸、フェイスタオルなどをおささげ下さい。

今年も感謝を込めて、収穫感謝礼拝を行います。この礼拝は、アメリカやカナダの教会で受け継がれてきた伝統です。その始まりは、イギリスから移住した人々が、先住民の方々に作物の育て方を教わり、収穫を共に感謝したことにあるといわれています。私たちもその心を受け継ぎ、収穫の恵みに感謝するとともに、献品を通して、食の支援を必要とする方々に思いを寄せたいと思います。

本校では毎年、全生徒のご家庭に以下の献品をお願いしております。

お米（ひとり一合程度）、たまねぎ、にんじん、じゃがいも（数個程度）、フェイスタオル（新品）、毛糸（並太、暗めの色：手芸同好会でネックウォーマーを編んでお届けします）

ご協力いただいた献品は「NPO 法人 ホームレス支援 福岡おにぎりの会」にお届けし、必要な方々にお渡しいたします。皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

献品期間：11 月 11 日（水）から 11 月 18 日（水）

Minamiku Art Next Collection2026

福岡市南区は、アートを学び、アート活動に取り組む学生や若手アーティストの創作活動や作品発表を支援する事業「Minamiku Art Next」を実施しています。１０月３日・４日に南市民センター等で開催されたアーティストたちの作品発表のイベント「Minamiku Art Next Collection2026」に高校美術部が作品出展の依頼を受け、特別出展いたしました。

あわせて、「市政だより」令和９年１月１日号の表紙を飾る（予定）作品制作の依頼を受け、生徒たちが公開制作を行いました。テーマは「スマイル１００プロジェクト～大切な人の笑顔を描く」。どうぞお楽しみに！



学院より

クリスマスツリー点灯式 －11 月16日(月)



本学院では、イエス・キリストのご降誕を待ち望むアドベントに先駆けて、毎年クリスマスツリー点灯式を行っています。園児、中高生、大学生、教職員が一同に集い学院全体で実施いたします。ギール記念講堂で礼拝を行い、点灯時にクリスマスツリーのあるロータリーへと移動します。どなたでもご参加いただけます。

■日時：11 月 16日（月）17:10～　■会場：ギール記念講堂／ロータリー

図書館より



読書週間 －10 月 27 日(火)～11 月 9 日(月) －

秋の訪れとともに夜の時間が長くなり、読書に最適な季節となりました。
11 月の展示は、「読書の時間」、「映画が教えてくれること」と毎年恒例の「図書委員と先生方の読書週間：おすすめ図書」を POP とともに紹介しています。また月替わりでは「美術館に行こう」（展示会関連図書）「秋の映画化・ドラマ化特集」の原作図書展示。日々では礼拝で紹介された図書をすぐに展示。《最新》の情報が満載です。加えて文集委員による特設展示「わかぎ」をエピソード POP とともに置いています。

今年度より、図書館からのお知らせ（カレンダー・図書館通信など）はロイロノートに配信しています。図書館通信秋号も更新しました。ぜひチェックして足を運んでください。

事務室からのお知らせ

【高校生等奨学給付金について】 対象：高校生

（※10/2 付さくら連絡網でも同案内をお送りしております。（高校生のみ））

本給付金は下記に該当、申請されたご家庭に対し給付されるもので、返済は不要です。
申請書類は事務室に準備していますので、配付期間内にお受け取りください。
なお、申請には「令和８年度課税（非課税）証明書」が必要です。
（すでに申請された方につきましては、県から審査結果が届き次第、お送りいたします。）

- ◆ 対象となる世帯
  昨年度より要件が緩和されております。受給要件や申請手続きの詳細は、10/2（水）に「さくら連絡網」にて配信いたしました添付資料をご確認ください。
- ◆ 書類提出締切　2026 年 11 月２日（月）

「なくしものゼロウィーク」へのご協力ありがとうございました

10 月２日から 10 月９日まで、「なくしものゼロウィーク」を実施いたしました。事務室には年間約 120 点の落とし物が届きますが、持ち主のもとへ戻るものはわずか 20%ほどにとどまっています。そこで、本取り組みでは、事務室に保管されていた落とし物を一堂に展示し、一つでも多くの品物を持ち主のもとへ返すこと、そして「物を大切にする気持ち」を持ってもらうことを目的として開催いたしました。

期間中は、多くの生徒や保護者の皆様にお立ち寄りいただきました。「こんなところにあったのか」「諦めていたけれど残っていた」といったお声も聞かれ、忘れられていた品物との思わぬ再会の場となりました。キーホルダーやカーディガン、体育館シューズ、参考書など、あわせて 21 点の落とし物が無事に持ち主のもとへ戻りましたことを、大変嬉しく思っております。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

ご家庭においては、これからも持ち物への記名のご協力をよろしくお願いいたします。

11 月の奨励者紹介

11 月礼拝には、福田英樹牧師（前原教会）、矢島若葉牧師（福岡中部教会）をお招きします。先生方のお言葉を通して、聖書のメッセージに新たな気づきを与えられることを願っています。前原教会は筑前前原駅徒歩７分、福岡中部教会は地下鉄赤坂駅徒歩１分です。ぜひ教会の礼拝にも足を運んでみましょう。

また、石村修善さん（おとむらい牧師隊）、保田広輝さん（筋ジストロフィー患者）、谷村禎一先生（元九州大学教授）と多彩な奨励者をお招きします。

Schedule **November（11 月）**

日	曜	行　事	奨励者	日	曜	行　事	奨励者
1	日		----------	16	月		徐亦猛 （大学宗教主事）
2	月	夕方個別相談会	保田広輝 (基督兄弟団福岡教会)	17	火		藤井恵 （卒業生）
3	火	【文化の日】	----------	18	水		谷村禎一 (元九州大学教授)
4	水	ベネッセ模試（高）	守山惠子 （院長）	19	木	収穫感謝礼拝	前田美和子 （宗教主事）
5	木	ベネッセ模試（高2・3）	福田英樹 （前原教会）	20	金		前田あいみ （大学職員）
6	金		津留﨑聡史 （社会科）	21	土	ミニオープンスクール	----------
7	土	チャレンジテスト会 教育後援会	----------	22	日		----------
8	日		----------	23	月	【勤労感謝の日】	----------
9	月	カウンセリング キリスト教教育強調日（⑤⑥限）	前田美和子 （宗教主事）	24	火	期末考査（高）	落合道夫 （宗教部主任）
10	火	キリスト教教育強調日（終日）	石村修善 (おとむらい牧師隊)	25	水	期末考査（中高）	和田満瑠 （聖書科）
11	水		落合道夫 （宗教部主任）	26	木	↓	矢島若葉 （福岡中部教会）
12	木	Mission夢トーク（中1・高1）	前田美和子(宗教主事) →重枝一郎(校長)	27	金	↓	和田満瑠 （聖書科）
13	金	音楽科実技テストⅡ	小栗正裕 （大学教員）	28	土	入試説明会② 音楽科受験講習会	----------
14	土		----------	29	日		----------
15	日	河合全統プレ共通テスト（高3希望者）	----------	30	月	カウンセリング 夕方個別相談会（～11/6）	未定

女学院祭グッズ販売に伴う熊本地震募金のご報告とお礼

９月の女学院祭にて実施いたしましたオリジナルグッズ販売につきまして、たくさんの皆様にご購入いただき、誠にありがとうございました。

事前にお知らせしておりました通り、グッズの売り上げの一部（３万円）を、熊本地震の復興支援として福岡県私学協会を通して「令和８年度熊本地震による被災私立中学高等学校に対する義援金」に寄付いたしましたことをご報告申し上げます。皆様の温かいご支援とご協力に感謝いたします。被災地の一日も早い復興を引き続きお祈り申し上げます。